

31 A 0  
(31 C 0)  
(31 B 0)

特 許 公 報

特許出願公告  
昭38-5050

公告 昭 38.4.30 出願 昭 36.8.26 特願 昭 36-30431

優先権主張 1960.9.7 (スイス国)

発 明 者	グスタフ、エルレマン	スイス国リーヘン、ラインアレー54
同	ワルデマール、グエツクス	スイス国ポットミンゲン、スベヒトウエク4
出 願 人	エフ、ホフマン、ラ、ロツシュ、ウント、コンパニー、アクチエンゲゼルシャフト	スイス国バーゼル、グレンツアツヘルストラッセ124-184
代 表 者	マウリス、マテツツ	
同	ハインツ、マイエル	
代理人 弁理士	田 代 久 平 外1名	

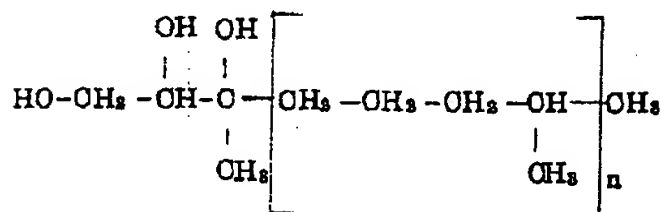
(全2頁)

皮 膚 及 び 毛 髪 養 護 剤

発明の詳細な説明

皮膚及び毛髪の化粧的養護は、皮膚及び毛髪の正常の性質を維持する目的に役立つものである。この目的のために多数の製剤が提案されたが、これ等製剤は一般にクリーム又はローションの形の担体物質より成り、これに有効物質例えばビタミン、ホルモン、滅真菌剤等が添加せられる。希望する化粧的效果例えば皮膚の柔軟化、荒れの防止及び外部からの作用に対する保護を達成するために、種々の物質の混合物を使用することが必要である。同様に殊に湿潤状態に於て、且つ殊にパーマントウエイプ及び染毛後、毛髪を梳くことを容易ならしめ、且つ処理せる毛髪に自然の美を与える毛髪の柔軟性を高める適当なる毛髪養護剤の製造に際しては、多数の物質を添加することが必要である。斯かる製品の他の欠点は、希望する化粧的效果を達成するために、担体物質が比較的高い濃度に於て添加されなければならない点に存する。多くの場合、良好なる化粧的效果を達成するためには、種々の欠点例えば毛髪及び皮膚の粘着性、外的影響に対する極めて僅少なる保護作用及び皮膚呼吸の阻止等も我慢しなければならない。

然るに一般式



(式中nは1-3なる整数を意味する)なるトリオールを含有することを特徴とする皮膚及び毛髪養護剤を使用することに依り、これ等の欠点を回避し得ることが知られた。

前記の一般式は3,7,11,15-テトラメチル-1,2,3-トリヒドロキシヘキサデカン(ジヒドロジヒドロキシフィトール)、3,7,11-トリメチル-1,2,3-トリヒドロキシドデカン及び3,7-ジメチル-1,2,3-トリヒドロキシオクタンを包含しているが、その中最初に述べた化合物が殊に有利である。

本発明に依り提案された皮膚及び毛髪の化粧的養護剤中に特別の適性を有するトリオールは、良好なる性質は、殊にこれ等化合物が皮膚及び毛髪に対し大なる附着力を有し、粘着及び脂質になることなく、且つこれ等化合物にて処理された皮膚或は毛髪に柔軟なピロードのような感じを与える点に存する。これ等化合物は、外物よりの作用に対し保護し且つ皮膚に対し親しい眼に見えない被膜を形成し、この被膜は撥水性であるが、皮膚呼吸を阻止しない。更にこれ等化合物は極めて安定であつて如何なる乳液にも、オイントメントにも、又ローションにも製造することができる。これ等化合物は又他の有効物質例えばビタミン、ホルモン、滅真菌剤及び滅菌剤と配合せられることができる。

本発明に依る皮膚及び毛髪養護剤中のトリオールの濃度は0.1乃至10%が適当である。然し乍ら希望する化粧的作用は、多くの場合低い濃度例えば0.1乃至3%に於て既に達成せられる。

本発明に依る皮膚及び毛髪養護剤を次の諸例に依り説明する。

例 1

顔面用ローションを製造するために、ジヒドロジヒドロキシフィトール0.5g及びパンテノール0.5gを96%アルコール49g中に溶解し、水5.0gを混和する。得たる溶液に、必要に応じ芳香をつけることができ

る。

例 2

ジヒドロージヒドロキシフイトール0.5g、パンテノール0.5g、1%ポリアクリル酸水溶液10.0g、トリエタノールアミン0.1g及び水88.9gを混和することに依り、顔面用乳液が得られ、これに必要な応じ芳香をつけることができる。

例 3

ジヒドロージヒドロキシフイトール1.0g、3,7-ジメチル-1,2,3-トリヒドロキシオクタン1.0g、オクセチル置換オレイルアルコール1.0g、99.6%アルコール10.0g及び1%アルギン酸塩水溶液87.0gを混和する時は、手用ローションが得られ、これに必要な応じ芳香をつけることができる。

例 4

ジヒドロージヒドロキシフイトール1.0g、3,7,11-トリメチル-1,2,3-トリヒドロキシデカン1.0g、3,7-ジメチル-1,2,3-トリヒドロキシオクタン1.0g、パンテノール0.5g及び96%アルコール26.5gを混合し、場合に依り香料を添加せる後、市販のエアゾール例えば塩素置換又は弗素置換炭化水素90gと共に加圧噴霧容器中に充填する。得たるスプレー製品は手又は皮膚養護剤として使用せられることができる。

例 5

ポリビニルピロリドン3.0g、ジヒドロージヒドロキシフイトール0.5g、パンテノール0.2g、9.6%アルコール(又はイソプロパノール)46.3g及び水50.0g

を混和し、場合に依り芳香をつける。得たる化粧品は、毛髪を強め且つ容易なる梳毛性を得るための毛髪養護剤として特に適する。

例 6

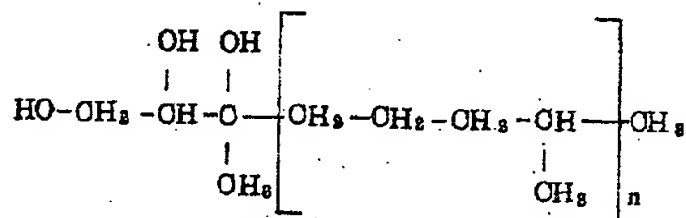
3,7,11-トリメチル-1,2,3-トリヒドロキシデカン0.3g、3,7-ジメチル-1,2,3-トリヒドロキシオクタン0.3g、パンテノール0.5g、N,N'-ビス(1-メチル-3-(2,2,6-トリメチルシクロヘキシル)-プロピル)-N,N'-ジメチル-1,6-ヘキサジアミン-ビス-(メトクロリド)0.2g、96%アルコール(又はイソプロピルアルコール)49.0g及び水50.0gを混和する。得たる毛髪用ローションに必要な応じ芳香をつけることができる。

なお本発明に依る皮膚及び毛髪養護剤の実施の態様を要約して示せば下記の通りである。

特許請求の範囲記載の皮膚及び毛髪養護剤に於てトリオールとして3,7,11,15-テトラメチル-1,2,3-トリヒドロキシヘキサデカン(ジヒドロキシフイトール)を使用する点。

#### 特許請求の範囲

##### 1 一般式



(式中nは1-3なる整数は意味する)なるトリオールを含有することを特徴とする皮膚及び毛髪養護剤。